

日本語の再発見  
世界最初の文字

人類最初の文字は、紀元前三三〇〇年頃、今のイラクにある、チグリス川とユウフラテス川に挟まれた地域に住んでゐたスメール人によって創作された。スメール人は、人類で最初に定住し、農耕することを始めた民族である。然し、スメール人は、その後間もなく世界の歴史から永遠に消え去ってしまふが、恐らく繁栄の極に周囲から侵入して来た蛮族によって亡ぼされたものであらう。

スメール文字が発明されておよそ百年後に、エジプトで“聖刻文字(ヒエログリフ)”と呼ばれる文字が発明されてゐる。この文字は、エジプト人が自ら作ったものだと思はれるが、恐らくスメール文字がエジプトに入り、これに触発されて作ったものだらうと私は思つてゐる。

漢字の創作が、もしも一般に言はれてゐるやうに殷王朝であるとするならば、紀元前一五〇〇年頃の事と思はれるから、スメール文字の発明からは実に千八百年も後の事になる。この長い年月の間に、シルクロードを経てスメール文字が中国に伝はらないわけがないと私は思ふ。だから、漢字も、スメール文字に触発された中国人によって作られたものであらうと私は思つてゐる。

また、一九二二年に発見されたインドのインダス川の流域にある、

モヘンジョ・ダロやハラッパーの古代遺跡は、少なくとも紀元前二〇〇〇年以前のものと推定されてゐるが、ここから出土した粘上板の絵画文字も、スメール文字に触発されて作られたものである、といふ考へ方が学界では有力である。

だから、漢字の発明も、スメール文字が、あるひはインダス文字が、シルクロードを経て中国に渡り、これに触発されて中国人が作った、と考へるのが至当であらう。それにもう一つ大きな理由がある。

漢字の構成法として、古くから“六書”<sup>りくしよ</sup>と呼ばれてゐる“象形・指事・会意・形声”の四つの構成法と、“転注・仮借”の二つの用字法のあることが広く知られてゐるけれども、それと全く同じ六つの用法がスメール文字にも存在してゐたことが明らかに認められるからである。

勿論、同じ人間が考へて作ったものだから、漢字の構成法がスメール文字と全く同じだからと言って、それがスメール文字の影響であつた理由にならない、と言へば言へないことはない。然し、それにも関はず、私は、「漢字はスメール文字に触発されて作られたものに先づ間違ひはない」と思ふものである。